

東京家政大学家政学部および文学部の1年生に対して開講している総合講座「環境と人間」の中で「洗濯と環境問題について」2週講義をした後に、受講者全員に対して洗顔、洗髪、歯磨き時における各自の日頃の水の使用量と、節水を心がけた水の使用量の調査を依頼し、報告書を提出してもらった。被験者の所属は、家政学部164名（児童学科47名、栄養学科66名、服飾美術学科51名）、文学部47名（英語英文学科9名、心理教育学科38名）の合計211名である。

水量の測定方法として次の①～③を実施させた。①各自が自宅等でふだん使っている水道を用い、通常の栓の開き具合にしたときに、一定時間内に出る水量をあらかじめ測定する。②洗顔、洗髪、歯磨きに使用した水量をはかる。③出来るだけ節水するにはどうしたらよいかを考えて、一番少ない水量で洗顔、洗髪、歯磨きをして、この時使用した水量をはかる。

図は洗髪について、普通に使用した場合と、節約して使用した場合の使用量の平均を各学科別に示したものである。洗髪の全体の平均では、日頃は35.8l、節約20.6lで節水量は15.2lとなった。洗顔では日頃7.9l、節約3.8lで節水量は4.1lとなった。歯磨きでは日頃2.4l、節約0.8lで節水量は1.6lとなった。節水率としてはそれぞれ43%、52%、66%であった。

